

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-3)

孔名: H27-B-3

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容		
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
431	147.08	150.59	CH 堅硬・塊状 開口割れ目は殆んどがゆ着割れ目が開口したものの。 残留しているゆ着割れ目は周囲と同一し密着度が高くハンマーの強打でも分離しない。 各割れ目面にはほぼ挟在物は分布せず、未風化で新鮮。	147.08	150.59	CH 堅硬・塊状 開口割れ目は殆んどがゆ着割れ目が開口したものの。 残留しているゆ着割れ目は周囲と同一し密着度が高くハンマーの強打でも分離しない。 各割れ目面にはほぼ挟在物は分布せず、未風化で新鮮。	147.08	150.59	147.08~150.59m: CH 堅硬・塊状。開口割れ目は殆んどがゆ着割れ目が開口したものである。 残留するゆ着割れ目は周囲と同一し、密着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。各割れ目面に挟在物は殆んど分布せず、未風化で新鮮である。	
432	148.78	148.78	65° 割れ目面に厚さ1mm/緑泥石が固結粘土フィルム状に付着する。	148.78	148.78	65° 割れ目面に厚さ1mm緑泥石の硬質な粘土がフィルム状に付着する。	148.78	148.78	148.78m: 65° の割れ目面に幅1mmの緑泥石の硬質な粘土がフィルム状に付着する。	
433	149.20	149.36	やや割れ目が多いが劣化は伴わない。	149.20	149.36	やや割れ目が多いが劣化は伴わない。	149.20	149.36	149.20~149.36m: 割れ目がやや多いが、劣化は伴わない。	
434	150.04	150.59	50~80°・厚0.5m/m以下主体の緑泥石細脈が多く分布。 大半は周囲と同一し開口割れ目化していない。	150.04	150.59	50~80°・幅0.5mm以下主体の緑泥石細脈が多く分布。 大半は周囲と同一し開口割れ目化していない。	150.04	150.59	150.04~150.59m: 50~80° で幅0.5mm以下の緑泥石細脈が多く分布する。大半は周囲と同一し、開口割れ目化していない。	
435	150.41	150.41	緑泥石脈中に厚さ10m/mの石英をレンズ状に伴っている。	150.41	150.41	石英脈中に厚さ10mmの白色岩片を塊状に伴っている。	150.41	150.41	150.41m: 石英脈中に幅10mmの白色岩片を塊状に伴う。	
436	150.59	151.57	CM 20~40° と70~80° 割れ目が交差しやや割れ目が多くなっている。	150.59	151.57	CM 20~40° と70~80° 割れ目が交差しやや割れ目が多くなっている。	150.59	151.57	150.59~151.57m: CM 20~40° と70~80° の割れ目が交差し、割れ目がやや多くなる。	
437	151.21	151.21	85° 割れ目の一部で厚さ2m/mのφ2m/m細片化部はさむ。	151.21	151.21	85° 割れ目の一部で厚さ2mmのφ2mm細片化部はさむ。	151.21	151.21	151.21m: 85° の割れ目の一部に幅2mmで径2mmの細片化部を挟む。	
438	151.50	151.52	石英と暗褐色鉱物が共生して分布。	151.50	151.52	石英脈に径0.5mmの暗赤褐色鉱物を伴う。	151.50	151.52	151.50~151.52m: 石英脈に径0.5mmの暗赤褐色鉱物を伴う。	
439	151.57	152.23	CH 堅硬・塊状 割れ目やゆ着割れ目は幅0.5m/m程度に緑泥石化するが、ゆ着割れ目の大半は密着度が高くハンマーの打撃でも分離・細片化しない。 一部は開口化している。粘土や砂ははさまない。	151.57	152.23	CH 堅硬・塊状 割れ目やゆ着割れ目は幅0.5mm程度に緑泥石化するが、ゆ着割れ目の大半は密着度が高くハンマーの打撃でも分離・細片化しない。 一部は開口化している。粘土や砂は挟まない。	151.57	152.23	151.57~152.23m: CH 堅硬・塊状。割れ目やゆ着割れ目は幅0.5mm程度に緑泥石化するが、ゆ着割れ目の大半は密着度が高く、ハンマーの打撃で分離・細片化しない。一部は開口化する。粘土や砂は挟まない。	
440	151.47	151.52	緑泥石化と珪化が進み硬化している。	-	-	-	151.47	151.52	151.47~151.52m: 緑泥石化と珪化が進み硬化する。	
441	152.23	153.85	B 堅硬・塊状で割れ目はわずか。割れ目挟在物は分布しない。 割れ目やゆ着割れ目の一部は割れ目ぞいに緑泥石化するが硬質。	152.23	153.85	CH 堅硬・塊状で割れ目はわずか。割れ目挟在物は分布しない。 割れ目やゆ着割れ目の一部は割れ目ぞいに緑泥石化するが硬質。	152.23	153.85	152.23~153.85m: CH 堅硬・塊状で割れ目はわずかに分布する。割れ目に挟在物は分布しない。割れ目やゆ着割れ目の一部は割れ目ぞいに緑泥石化するが硬質である。	
442	152.23	153.85	(岩級区分欄)B	152.23	153.85	(岩級区分欄)CH	152.23	153.85	(岩級区分欄)CH	
443	152.50	152.67	上下端を厚さ10~20m/mの石英脈に囲まれた「プロトカタクラーサイト」であるが、角礫と基質は同一し硬化している。	152.50	152.67	上下端を厚さ10~20mmの石英脈に囲まれた範囲に岩片が多数含まれる。岩片に移動や回転は見られない。に囲まれた「プロトカタクラーサイト」であるが、岩片と基質は同一し硬化している。岩片の輪郭が不鮮明で虫食い状になっており、岩片や石英脈に系統的な配列は見られない。岩片と周辺の岩盤、石英脈は完全にゆ着している。	152.50	152.67	152.50~152.67m: 上下端を幅10~20mmの石英脈に囲まれた範囲に岩片が多数含まれる。岩片に移動や回転は見られない。岩片と基質は同一し、硬質化する。岩片の輪郭が不鮮明で虫食い状になっており、岩片や石英脈に系統的な配列は見られない。岩片と周辺の岩盤、石英脈は完全にゆ着する。	

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-3)

孔名: H27-B-3

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				
444	153.20	153.20	153.20	153.20	153.20	153.20	153.20	153.20m付近に径10mmと大型・橙色のかり長石斑晶が点在。	-
445	153.25	153.60	153.25	153.60	60~80°の高角度な白色筋状の仰着割れ目が数本分布するが密着度高く開口化しない。	153.25	153.60	60~80°の高角度な白色筋状の仰着割れ目が数本分布するが密着度高く開口化しない。	-
446	153.85	154.60	-	-	CH 堅硬、塊状	-	-	153.85~154.60m: CH 堅硬、塊状。	-
447	154.42	154.60	154.42	154.60	緑泥石化が進むが硬質。上端では割れ目が交差し片状化するが微細な黄鉄鉱を伴う以外は粘土、砂などは含まない。	154.42	154.60	154.42~154.60m: 緑泥石化が進むが硬質である。上端は30~70°の割れ目が交差し片状化するが、微細な黄鉄鉱を伴う以外は粘土、砂など含まない。	-
448	154.60	156.18	154.60	156.18	B 堅硬、塊状で割れ目少ない。155.25m以深で60~90°の高角度白色筋状の仰着割れ目が多いが密着度は高く、ハンマーの強打でも分離しない。	154.60	156.18	154.60~156.18m: CH 堅硬、塊状で割れ目少ない。155.25m以深で60~90°の高角度白色筋状の仰着割れ目が多いが密着度は高く、ハンマーの強打でも分離しない。	-
449	154.60	156.18	154.60	156.18	(岩級区分欄)B	154.60	156.18	(岩級区分欄)CH	-
450	155.25	155.25	155.25	155.25	70~80°割れ目で交差する一部の仰着割れ目が切られている(変位不明)。	155.25	155.25	70~80°割れ目で交差する一部の仰着割れ目が止まっている。切られている(変位不明)。70~80°の割れ目に細粒部は認められない。周辺の岩盤に原岩組織が見られ、系統的な割れ目も存在しない。	-
451	156.77	156.80	156.77	156.80	一部で緑泥石化し径30mm/mの斑状に緑灰色化する。軟化は伴わない。	156.77	156.80	156.77~156.80m: 一部で緑泥石化し径30mmの斑状に緑灰色化する。軟化は伴わない。	-
452	156.00	156.14	156.00	156.14	白色筋状の仰着割れ目の一部がはがれかかっているがよく密着している。	156.00	156.14	156.00~156.14m: 白色筋状の仰着割れ目の一部が剥離しかかっているがよく密着している。	-
453	156.18	159.24	156.18	159.24	CH 堅硬、塊状。一部に長さ20cm以上の柱状コアも混入するが長さ10~20cm(Ⅲ)が主体。割れ目や仰着割れ目の一部は緑泥石化するがよく密着している。	156.18	159.24	156.18~159.24m: CH 堅硬、塊状。一部に長さ20cm以上の柱状コアも混入するが長さ10~20cm(Ⅲ)が主体。割れ目や仰着割れ目の一部は緑泥石化するがよく密着している。	-
454	156.50	156.90	156.50	156.90	割れ目が交差し一部で片状化するが挟在物は分布しない。	156.50	156.90	156.50~156.90m: 18~80°の割れ目が交差し、一部で片状化するが、挟在物は分布しない。	-
455	157.00	-	-	-	157.00m以深は20~40°割れ目が主体。	-	-	157.00m以深は20~40°の割れ目が主体。	-
456	157.35	157.89	-	-	わずかながら石基も緑泥石化し緑灰色を帯びる。	-	-	157.35~157.89m: わずかに石基も緑泥石化し緑灰色を帯びる。	-
457	157.83	157.89	157.83	157.89	30°程度で径2~3mm/mの暗緑灰色の緑泥石が弱い配列性をもって点在する。	157.83	157.89	157.83~157.89m: 30°程度で径2~3mmの暗緑灰色の緑泥石が弱く脈状に点在する。	-
458	158.20	158.30	158.20	158.30	径10m/m前後の大型なかり長石が点在。	158.20	158.30	158.20~158.30m: 径10mm前後の大型なかり長石が点在する。	-
459	158.54	158.62	158.54	158.62	158.54mと158.62mに70~75°厚1~2mm/mで石英を伴って緑泥石脈が分布。よく密着し分離しない。	158.54	158.62	158.54mと158.62mに70~75°、幅1~2mmで石英脈が分布。よく密着し分離しない。	-

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-3)

孔名：H27-R-3

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			
記事	記事	記事	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事	記事	記事	記事	記事	
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事	
		コア観察カードから正しく転記されているか？ <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか？ <input checked="" type="checkbox"/>			選定した記事内容	
460	158.54	-	158.54m以深は石基も含め緑泥石化が進み暗緑灰色を呈する。軟質化は伴わず堅硬である。	158.54	-	158.54	-	158.54m以深は石基も緑泥石化が進み、暗緑灰色を呈する。軟質化は伴わず、堅硬である。	
461	159.24	160.40	B 堅硬、塊状で割れ目が少ない。緑泥石化により暗緑色や白色筋状の仲着割れ目を多く含むが堅硬で密着度高く、ハンマーの強打でも分離しない。割れ目挟在物も分布しない。全体に緑泥石化が進み暗緑灰色が主体であるが、緑泥石化の弱い部分は母岩の橙色が残留。全体的には色調がまだら模様を呈する。	159.24	160.40	CH 堅硬、塊状で割れ目が少ない。緑泥石化により暗緑色や白色筋状の仲着割れ目を多く含むが堅硬で密着度高く、ハンマーの強打でも分離しない。割れ目挟在物も分布しない。全体に緑泥石化が進み暗緑灰色が主体であるが、緑泥石化の弱い部分は母岩の橙色が残留。全体的には色調がまだら模様を呈する。	159.24	160.40	159.24~160.40m:CH 堅硬、塊状で割れ目が少ない。緑泥石化により暗緑色や白色筋状の仲着割れ目を多く含むが、堅硬で密着度高く、ハンマーの強打でも分離しない。割れ目に挟在物も分布しない。全体に緑泥石化が進み、暗緑灰色を呈するが、緑泥石化の弱い部分は母岩の橙色が残留する。全体的に色調がまだら模様を呈する。
462	159.24	160.40	(岩級区分欄)B	159.24	160.40	(岩級区分欄)CH	159.24	160.40	(岩級区分欄)CH
463	159.45	159.45	60° 割れ目が交差する65° 仲着割れ目を切っている。(見掛け変位量2mm/m左ズレ)	159.45	159.45	60° 割れ目が交差する65° 仲着割れ目を横断している。を切っている。(見掛け変位量2mm左ズレ) 60° の割れ目に細粒部は見られない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	159.45	159.45	159.45m:60° の割れ目が交差する65° の仲着割れ目を横断する。60° の割れ目に細粒部は見られない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。
464	160.40	162.57	CH 堅硬、塊状。上下位に比べやや割れ目が多い。割れ目挟在物は分布しない。	160.40	161.45	CM 堅硬、塊状。上下位に比べやや割れ目が多い。割れ目挟在物は分布しない。	160.40	161.45	160.40~161.45m:CM 堅硬、塊状。上下位に比べ割れ目がやや多い。割れ目に挟在物は分布しない。
465	160.40	161.45	(コアの形状欄)Ⅲランク (岩級区分欄)CH	160.40	161.45	(コアの形状欄)Ⅳランク (岩級区分欄)CM	160.40	161.45	(コアの形状欄)Ⅳランク (岩級区分欄)CM
466	101.10	101.09	φ5m/m前後と大型な暗緑色・緑泥石を斑点状に含む。このうち、上端側の161.10~161.24mは石基も含む全体で緑泥石化が進み、緑灰色を呈する。	161.10	161.09	φ5mm前後と大型な暗緑色の緑泥石を斑点状に含む。このうち、上端側の161.10~161.24mは石基も含む全体で緑泥石化が進み、緑灰色を呈する。	161.10	161.09	161.10~161.09m:径5mm前後の大型な暗緑色の緑泥石を斑点状に含む。161.10~161.24mは石基も緑泥石化が進み、緑灰色を呈する。
467	161.70	161.90	割れ目交差部の一部で片状化するが岩片は堅硬で、粘土や砂をはさまない。	161.70	161.90	60° の割れ目交差部の一部で片状化するが岩片は堅硬で、粘土や砂を挟まない。	161.70	161.90	161.70~161.90m:60° の割れ目交差部の一部で片状化するが、岩片は堅硬で、粘土や砂を挟まない。
468	162.12	162.18	φ10m/m前後と大型な橙色のかり長石が点在する。	162.12	162.18	φ10mm前後と大型な橙色のかり長石が点在する。	162.12	162.18	162.12~162.18m:径10mm前後の大型な橙色のかり長石が点在する。
469	162.46	162.57	80~90° の仲着割れ目が5~20m/m間隔で平行に分布。密着度が低く、ハンマーの強打で分離する。	162.46	162.57	80~90° の仲着割れ目が5~20mm間隔で平行に分布。密着度が低く、ハンマーの強打で分離する。	162.46	162.57	162.46~162.57m:80~90° の仲着割れ目が5~20mm間隔で平行に分布する。密着度が低く、ハンマーの強打で分離する。
470	162.57	166.05	B 堅硬、塊状でコア長20cm以上の長柱状コア主体。一部に厚1~2m/mの白色筋状の仲着割れ目が発達するが、密着度は高く、ハンマーの強打でも分離しない。仲着割れ目には石英を脈状にはさまものも多い。橙色のかり長石が濃集する部分も含まみ、この部分では色調が橙色系(にぶい橙色など)を呈している。緑泥石化は割れ目や仲着割れ目ぞいでは殆んど分布せずφ2~5m/mの斑点状などとして晶出している。	161.45	166.05	OII 堅硬、塊状でコア長20cm以上の長柱状コア主体。一部に幅1~2mmの白色筋状の主に高角度の仲着割れ目が発達するが、密着度は高く、ハンマーの強打でも分離しない。仲着割れ目には石英を脈状に挟むものも多い。橙色のかり長石が濃集する部分も含まみ、この部分では色調が橙色系(にぶい橙色など)を呈している。緑泥石化は割れ目や仲着割れ目ぞいでは殆んど分布せずφ2~5mmの斑点状などとして晶出している。	161.45	166.05	161.45~166.05m:CH 堅硬、塊状でコア長20cm以上の長柱状コアが主体。一部に幅1~2mmの白色筋状の主に高角度の仲着割れ目が発達するが、密着度は高く、ハンマーの強打でも分離しない。仲着割れ目には石英を脈状に挟むものも多い。橙色のかり長石が濃集する部分も含まみ、にぶい橙色などの橙色系を呈する。緑泥石化は割れ目や仲着割れ目ぞいでは殆んど分布せず、径2~5mmの斑点状に晶出する。
471	162.57	166.05	(岩級区分欄)B	162.57	166.05	(岩級区分欄)CH	162.57	166.05	(岩級区分欄)CH

コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由
(コア観察カードからの変更点)
(コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-3)

孔名: H27-B-3

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	
記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			選定した記事内容			
472	163.50	163.60	高角度割れ目が交差し、一部で片状化するが岩片は堅硬で、砂や粘土は含まない。面の一部に黄鉄鉱が晶出している。	163.50	163.60	高角度割れ目が交差し、一部で片状化するが岩片は堅硬で、砂や粘土は含まない。面の一部に黄鉄鉱が晶出している。	163.50	163.60	163.50~163.60m: 高角度割れ目が交差し、一部で片状化するが、岩片は堅硬で、砂や粘土は含まない。面の一部に黄鉄鉱が晶出する。
473	164.00	164.30	φ10m/mと大型・橙色のかり長石と同径・緑灰色の緑泥石が混在する。	164.00	164.30	φ10mmと大型の橙色のかり長石と同径の緑灰色の緑泥石が混在する。	164.00	164.30	164.00~164.30m: 径10mmの大型の橙色のかり長石と同径の緑灰色の緑泥石が混在する。
474	164.50	164.50	φ50m/m緑泥石晶洞。石英などの2次鉱物を伴っている。	164.50	164.50	φ50mmの石英の晶洞。長石などの2次鉱物を伴っている。	164.50	164.50	164.50m: 径50mmの石英の晶洞で、長石などの2次鉱物を伴う。
475	164.94	164.94	70°密着割れ目上盤側に厚さ20m/mの石英脈が緑泥石を伴って分布。上下端境界は堅硬。	164.94	164.94	70°密着割れ目上盤側に厚さ20mmの石英脈が緑泥石を伴って分布。上下端境界に劣化はない。	164.94	164.94	164.94m: 70°の密着割れ目で、上端側に幅20mmの石英脈が緑泥石を伴って分布する。上下端境界に劣化はない。
476	164.95	165.89	橙色のかり長石の含有が上下位に比べ多くなり、色調も橙色系(にぶい橙色)を呈する。	164.95	165.89	橙色のかり長石の含有量が上下位に比べ多くなり、色調も橙色系(にぶい橙色)を呈する。	164.95	165.89	164.95~165.89m: 橙色のかり長石の含有量が上下位に比べ多くなり、にぶい橙色などの橙色系を呈する。
477	165.32	165.32	70°割れ目は165.32mでφ8m/mの橙色かり長石を切断している。また交差する割れ目の一部も切っている(見掛け変位置2~5m/m左ズレ)。本割れ目面には鏡肌も認められる。	165.32	165.32	70°割れ目は165.32mでφ8mmの橙色かり長石を横断切断している。また交差する割れ目の一部も止めている。切っている(見掛け変位置2~5mm左ズレ)。本割れ目面には鏡肌も認められる。割れ目に細粒部は認められず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が見られる。系統的な割れ目も存在しない。	165.32	165.32	165.32m: 70°の割れ目は165.32mで径8mmの橙色のかり長石を横断する。また、交差する割れ目の一部も止めている。割れ目に細粒部は認められず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が見られる。系統的な割れ目も存在しない。
478	165.80	166.10	φ10~20m/mの石英が多く晶出している。一部は他形の結晶型を示すため熱水変質で緑泥石と共に晶出した2次石英である。	165.80	166.10	φ10~20mmの石英が多く晶出している。一部は他形の結晶型を示すため熱水変質で緑泥石と共に晶出した2次石英である。	165.80	166.10	165.80~166.10m: 径10~20mmの石英が多く晶出する。一部は他形の結晶型を示すため熱水変質で緑泥石と共に晶出した2次石英である。
479	166.44	166.47	φ10m/m斑状~長20~30m/m・幅5m/mのレンズ状で石英が晶出。	166.44	166.47	φ10mm斑状~長20~30mm・幅5mmのレンズ状で石英が晶出。	166.44	166.47	166.44~166.47m: 径10mmの斑状~長さ20~30mm・幅5mmのレンズ状で石英が晶出する。
480	166.65	167.21	CH 一部でやや割れ目が多いが、岩片は堅硬で、粘土や砂などの挟在物は分布しない。	166.65	167.21	CH 一部でやや高角度割れ目が多いが、岩片は堅硬で、粘土や砂などの挟在物は分布しない。	166.65	167.21	166.65~167.21m: CH 一部で高角度割れ目が多いが、岩片は堅硬で、粘土や砂などの挟在物は分布しない。
481	167.00		167.00m以深では緑泥石化が進み、暗緑灰色を呈する。	-	-	-	167.00	-	167.00m以深は緑泥石化が進み、暗緑灰色を呈する。
482	167.21	167.55	CM 白色筋状のゆ着割れ目が交差し岩片状に砕けているが岩片は堅硬で挟在物は分布しない。	167.21	168.22	CM 白色筋状のゆ着割れ目が交差し岩片状に砕けているが岩片は堅硬で挟在物は分布しない。	167.21	168.22	167.21~168.22m: CM 白色筋状のゆ着割れ目が交差し岩片状に砕けているが、岩片は堅硬で、挟在物は分布しない。
483	167.55	168.22	(コアの形状欄)IVランク (岩級区分欄)CH	167.55	168.22	(コアの形状欄)IVランク (岩級区分欄)CM	167.55	168.22	(コアの形状欄)IVランク (岩級区分欄)CM

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-3)

孔名: H27-B-3

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
記事	記事	記事	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事	記事	記事	記事	記事		
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事	記事	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			選定した記事内容		
484	167.55	169.66	CH 堅硬、塊状で、コア長20cm以上の長柱状コアも含むが、10~20cmの柱状コア主体。 白色筋状のゆ着割れ目も含んでいるが密着度は高くハンマーの強打でも分離しない。 全体に緑泥石化し、φ2~3m/m暗緑灰色の斑点状に晶出して点在する。割れ目やゆ着割れ目ぞいに分布するものは少ない。緑泥石化が強い部分は色調が暗緑灰色を呈する。 割れ目には粘土、砂などの挟在物は分布しないが、一部で緑泥石化や黄鉄鉱晶出部が認められる。	169.22	169.66	CH 堅硬、塊状で、コア長20cm以上の長柱状コアも含むが、10~20cmの柱状コア主体。 白色筋状のゆ着割れ目も含んでいるが密着度は高くハンマーの強打でも分離しない。 全体に緑泥石化し、φ2~3mm暗緑灰色の斑点状に晶出して点在する。割れ目やゆ着割れ目ぞいに分布するものは少ない。緑泥石化が強い部分は色調が暗緑灰色を呈する。 割れ目には粘土、砂などの挟在物は分布しないが、一部で緑泥石化や黄鉄鉱晶出部が認められる。	168.22	169.66	168.22~169.66m: CH 堅硬、塊状で、コア長20cm以上の長柱状コアも含むが、10~20cmの柱状コアが主体。白色筋状のゆ着割れ目も含むが、密着度は高く、ハンマーの強打でも分離しない。全体に緑泥石化し、径2~3mmの暗緑灰色の斑点状に晶出して点在する。割れ目やゆ着割れ目ぞいに分布するものは少ない。緑泥石化が強い部分は暗緑灰色を呈する。割れ目には粘土、砂などの挟在物は分布しないが、一部で緑泥石化や黄鉄鉱の晶出が認められる。	-
485	168.22	169.66	(コアの形状欄) IIIランク	168.22	169.66	(コアの形状欄) IIランク	160.22	169.66	(コアの形状欄) IIランク	-
486	169.19	169.41	緑泥石化が進み暗緑灰色化する。 軟質化は伴わず堅硬。	169.19	169.41	緑泥石化が進み暗緑灰色化する。 軟質化は伴わず堅硬。	169.19	169.41	169.19~169.41m: 緑泥石化が進み、暗緑灰色化する。軟質化は伴わず堅硬である。	-
487	169.50	-	169.50m以深、φ2~3m/mの緑泥石が斑点状に多く晶出。	169.50	-	169.50m以深、φ2~3mmの緑泥石が斑点状に多く晶出。	-	-	-	下記に具体的な区間の記載があるため記載しない
488	169.66	172.69	B 堅硬、塊状で割れ目が少ない。 一部に白色筋状のゆ着割れ目が分布するが密着度が高く、分離しない。	169.66	172.69	CH 堅硬、塊状で割れ目が少ない。 一部に白色筋状のゆ着割れ目が分布するが密着度が高く、分離しない。	169.66	172.69	169.66~172.69m: CH 堅硬、塊状で割れ目が少ない。一部に白色筋状のゆ着割れ目が分布するが、密着度が高く、分離しない。	-
489	169.66	172.69	(岩級区分欄) B	169.66	172.69	(岩級区分欄) CH	169.66	172.69	(岩級区分欄) CH	-
490	169.67	170.22	φ2~3m/mの暗緑灰色緑泥石が斑点状に多く晶出。	169.67	170.22	φ2~3mmの暗緑灰色の緑泥石が斑点状に多く晶出。	169.67	170.22	169.67~170.22m: 径2~3mmの暗緑灰色の緑泥石が斑点状に多く晶出する。	-
491	170.20	170.65	60~70°のゆ着割れ目が数本分布するが密着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。	-	-	-	170.20	170.65	170.20~170.65m: 60~70°のゆ着割れ目が数本分布するが、密着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。	-
492	171.00	171.08	φ10m/mの大型で橙色のかり長石が晶出し点在する。	171.00	171.08	φ10mmの大型で橙色のかり長石が晶出し点在する。	171.00	171.08	171.00~171.08m: 径10mmの大型の橙色のかり長石が点在する。	-
493	171.29	171.29	割れ目が交差するが交差部周辺は片状化しない。	171.29	171.29	35°と87°の割れ目が交差するが交差部周辺は片状化しない。	171.29	171.29	171.29m: 35°と87°の割れ目が交差するが、交差部周辺は片状化しない。	-
494	171.85	171.85	割れ目が交差するが交差部周辺は片状化しない。	171.85	171.85	34°と74°の割れ目が交差するが交差部周辺は片状化しない。	171.85	171.85	171.85m: 34°と74°の割れ目が交差するが、交差部周辺は片状化しない。	-
495	172.32	172.53	φ2~3m/m暗緑灰色の緑泥石が幅0.5~1m/m石英細脈を伴って、斑点状に晶出、点在する。	172.32	172.53	φ2~3mm暗緑灰色の緑泥石が幅0.5~1mm石英細脈を伴って、斑点状に晶出、点在する。	172.32	172.53	172.32~172.53m: 径2~3mmの暗緑灰色の緑泥石が幅0.5~1mmの石英細脈を伴って、斑点状に晶出、点在する。	-
496	172.69	174.13	CH 堅硬、塊状でコア長20cm以上の長柱状コアも含むが10~20cmの柱状コア主体。 一部で緑泥石化し、割れ目やゆ着割れ目によって細脈状~φ1~3m/mの斑点状に晶出している。割れ目面には砂や粘土は含まない。細脈部には石英を伴うこともある。	172.69	174.13	CH 堅硬、塊状でコア長20cm以上の長柱状コアも含むが10~20cmの柱状コア主体。 一部で緑泥石化し、割れ目やゆ着割れ目によって細脈状~φ1~3mmの斑点状に晶出している。割れ目面には砂や粘土は含まない。細脈部には石英を伴うこともある。	172.69	174.13	172.69~174.13m: CH 堅硬、塊状でコア長20cm以上の長柱状コアも含むが、10~20cmの柱状コアが主体。一部で緑泥石化し、割れ目やゆ着割れ目によって細脈状~径1~3mmの斑点状に晶出する。割れ目面に砂や粘土は含まない。細脈部に石英を伴うこともある。	-
497	173.66	176.73	密着度の低いゆ着割れ目10~20mm間隔で分布。ハンマーの強打で分離・細片化するが粘土や砂など挟在物は分布しない。	173.66	176.73	密着度の低い潜在割れ目10~20mm間隔で分布。ハンマーの強打で分離・細片化するが粘土や砂など挟在物は分布しない。	173.66	176.73	173.66~176.73m: 密着度の低い潜在割れ目が10~20mm間隔で分布し、ハンマーの強打で分離・細片化するが、粘土や砂など挟在物は分布しない。	-

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-3)

孔名: H27-B-3

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容		
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
498	173.93	173.93	43° 割れ目はφ5mm/mの橙色カリ長石を切っている。	173.93	173.93	43° 割れ目はφ5mmの橙色カリ長石を横断する。また、43°の割れ目と交差する2条の高角度の仰着割れ目が見られる。切っている。割れ目に細粒部は認められず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が見られ、系統的な割れ目も存在しない。	173.93	173.93	173.93m: 43°の割れ目は径5mmの橙色のカリ長石を横断する。また、43°の割れ目と交差する2条の高角度の仰着割れ目が見られる。割れ目に細粒部は認められず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が見られ、系統的な割れ目も存在しない。	-
499	174.13	175.55	B 堅硬、塊状で一部の割れ目交差部で区間長約10cm片状化するが、コア長20cm以上の長柱状コア主体。 一部に白色筋状の仰着割れ目を含むが密着度は高くハンマーの強打でも分離しない。上位側に比べ緑泥石化は弱くなる。	174.13	175.55	CH 堅硬、塊状で一部の割れ目交差部でコア長約10cmに片状化するが、コア長20cm以上の長柱状コア主体。 一部に白色筋状の仰着割れ目を含むが密着度は高くハンマーの強打でも分離しない。上位側に比べ緑泥石化は弱くなる。	174.13	175.55	174.13~175.55m: CH 堅硬、塊状で一部の割れ目交差部でコア長約10cmに片状化するが、コア長20cm以上の長柱状コアが主体。一部に白色筋状の仰着割れ目を含むが、密着度は高く、ハンマーの強打でも分離しない。上位側に比べ緑泥石化は弱くなる。	-
500	174.13	175.55	(岩級区分欄) B	174.13	175.55	(岩級区分欄) CH	174.13	175.55	(岩級区分欄) CH	-
501	175.15	175.22	割れ目が交差し片状化するが、岩片は硬質で割れ目面には挟雑物は分布しない。	175.15	175.22	70°程度の割れ目が交差し片状化するが、岩片は硬質で割れ目面には挟雑物は分布しない。	175.15	175.22	175.15~175.22m: 70°程度の割れ目が交差し片状化するが、岩片は硬質で割れ目面に挟雑物は分布しない。	-
502	175.55	176.50	CH 堅硬、上下位に比べやや割れ目が多いがコア長10cm~20cm(Ⅲ)が主体。仰着割れ目も含むが大半は密着度が高くハンマーの打撃でも分離しない。	175.55	176.50	CH 堅硬、上下位に比べやや割れ目が多いがコア長10cm~20cm(Ⅲ)が主体。仰着割れ目も含むが大半は密着度が高くハンマーの打撃でも分離しない。	175.55	176.50	175.55~176.50m: CH 堅硬、上下位に比べ割れ目が多いが、コア長10~20cm(Ⅲ)が主体。仰着割れ目も含むが、大半は密着度が高く、ハンマーの打撃で分離しない。	-
503	175.45	175.71	175.45~175.71mは片状化するがコアチューブ引上げ時に片状化した可能性が高い。岩片は硬質で挟雑物は分布しない。 面の一部は赤褐色化し、断片的に鏡肌も認められる。 赤褐色部は褐鉄鉱である可能性がある。	175.45	175.71	175.45~175.71mは片状化するがコアチューブ引上げ時に片状化した可能性が高い。岩片は硬質で挟雑物は分布しない。 面の一部は赤褐色化し、断片的に鏡肌も認められる。 赤褐色部は褐鉄鉱である可能性がある。割れ目には細粒部は認められず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。	175.45	175.71	175.45~175.71mは片状化するが、コアチューブ引上げ時の擾乱による可能性が高い。岩片は硬質で挟雑物は分布しない。面の一部は赤褐色化し、断片的に鏡肌も認められる。赤褐色部は褐鉄鉱である可能性がある。割れ目には細粒部は認められず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。	-
504	175.71	176.78	CM 割れ目が交差し短柱状~一部岩片状を呈する。	176.50	176.78	CM 割れ目が交差し短柱状~一部岩片状を呈する。	176.50	176.78	176.50~176.78m: CM 割れ目が交差し短柱状~一部岩片状を呈する。	-
505	176.50	176.78	(岩級区分欄) CM	176.50	176.78	(岩級区分欄) CH	176.50	176.78	(岩級区分欄) CHに含める	-
506	175.59	175.62	30° 割れ目沿いに風化(γ)、軟化(D)。砂状~粘土状部ははさまない。	176.59	176.62	30° 割れ目沿いに風化(γ)、軟質化(D)。砂状~粘土状部は挟まない。	176.59	176.62	176.59~176.62m: 30°の割れ目沿いに風化(γ)し、軟質化(D)する。砂状~粘土状部は挟まない。	-
507	176.78	179.15	B 堅硬、塊状でコア長20cm以上の棒状コア主体。 一部に含まれる仰着割れ目も密着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。 上位に比べ緑泥石化が進み、φ2~5mm/暗緑灰色斑点状~厚さ0.5mm/細脈状で分布する。細脈状のものは大半が周囲とよく密着し、開口化していない。	176.78	179.15	CH 堅硬、塊状でコア長20cm以上の棒状コア主体。 一部に含まれる仰着割れ目も密着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。 上位に比べ緑泥石化が進み、φ2~5mm暗緑灰色斑点状~厚さ0.5mm細脈状で分布する。細脈状のものは大半が周囲とよく密着し、開口化していない。	176.78	179.15	176.78~179.15m: CH 堅硬、塊状でコア長20cm以上の棒状コアが主体。一部に含まれる仰着割れ目も密着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。上位に比べ緑泥石化が進み、径2~5mmの暗緑灰色の斑点状~幅0.5mmの細脈状で分布する。細脈状のものは大半が周囲とよく密着し、開口化しない。	-
508	176.78	179.15	(岩級区分欄) B	176.78	179.15	(岩級区分欄) CH	176.78	179.15	(岩級区分欄) CH	-
509	177.65	177.65	35° 厚さ2~3m/mの石英脈が分布。周囲と同化している。	177.65	177.65	35° 厚さ2~3mmの石英脈が分布。周囲と同化している。	177.65	177.65	177.65m: 35°で幅2~3mmの石英脈が分布する。周囲と同化する。	-
510	177.83	178.27	間にはφ5~10m/mと大型な橙色のカリ長石が晶出・点在する。	177.83	178.27	間にはφ5~10mmと大型な橙色のカリ長石が晶出・点在する。	177.83	178.27	177.83~178.27m: 径5~10mmの大型な橙色のカリ長石が晶出し、点在する。	-

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-3)

孔名:H27-B-3

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <div style="text-align: center;"><input checked="" type="checkbox"/></div>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <div style="text-align: center;"><input checked="" type="checkbox"/></div>				
511	178.31	178.39	178.31	178.39	178.31	178.39	178.31	178.39	-
512	178.45	-	-	-	-	-	178.45	-	-
513	179.15	180.00	179.15	180.00	179.15	180.00	179.15	180.00	-
514	179.15	180.00	179.15	180.00	179.15	180.00	179.15	180.00	-

H27-B-4

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-4)

孔名: H27-B-4

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				
1	-	-	0.00	13.75	盛土	0.00	13.75	0.00~13.75m:盛土	
2	0.00	0.22	0.00	0.22	礫(盛土) φ5~50mmの角礫からなる。岩種は砂質頁岩。	0.00	0.22	0.00~0.22m:礫 径5~50mmの角礫からなる。岩種は砂質頁岩。	
3	0.22	3.10	0.22	3.10	礫混じり砂(盛土) φ2~20mm程度の花崗斑岩、アブライト、頁岩などの礫(角礫~垂円礫)を含む。最大径40mm 基質は褐色味を帯びた粗砂が主体。 0.22~1.00m間は比較的礫分に富む(礫率5~10%) 総じて緩く、コアは指圧で容易に凹む。	0.22	3.10	0.22~3.10m:礫混じり砂 径2~20mm程度の花崗斑岩、アブライト、頁岩などの礫(角礫~垂円礫)を含む。最大径40mm。基質は褐色味を帯びた粗砂が主体。0.22~1.00m間は比較的礫分に富む(礫率5~10%)。全体に緩く、コアは指圧で容易に凹む。	
4	3.10	6.30	3.10	6.30	砂質礫(盛土) 礫分が多くなる。礫種は花崗岩類、アブライトの他、黒色の砂質頁岩やコンクリート片を混入する φ10~100mmの角礫~垂角礫が多い	3.10	6.30	3.10~6.30m:砂質礫 礫分が多くなる。礫種は花崗岩類の他、黒色の砂質頁岩やコンクリート片が混入する。径10~100mmの角礫~垂角礫が多い。基質は細礫及び粗砂からなる。	
5	3.30	3.58	-	-	-	3.30	3.58	3.30~3.58m:コンクリート片	
6	3.70	4.00	3.70	4.00	この間基質は流失済み。	3.70	4.00	3.70~4.00m:基質は流失済み。全体にルーズ。	
7	4.00	8.00	4.00	8.00	花崗岩、花崗斑岩、アブライト等の花崗岩類の礫を多く含む。他、黒灰色の砂質頁岩を少量含む。角礫~垂角礫が主体で礫径はφ10~50mmが多くmax φ90mm 基質は細礫+粗砂	-	-	-	
8	5.73	6.00	-	-	-	5.73	6.00	5.73~6.00m:基質はやや流失済み。	
9	6.30	7.00	6.30	7.00	砂(粗砂)が主体となる。花崗岩類のφ5~20mmの角礫を含み、きわめて少量のφ10mm以下の頁岩角礫を含む。上位の盛土に取って、良く締っている。	6.30	7.00	6.30~7.00m:礫混じり砂 粗砂が主体となる。花崗岩類の径5~20mmの角礫を5%以下で含み、極めて少量の径10mm以下の頁岩の角礫を含む。上位に比べて良く締っている。	
10	7.00	7.45	7.00	7.45	Apの巨礫。頁岩の捕獲岩片を含む。	7.00	7.45	7.00~7.45m:アブライトの巨礫	

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-4)

孔名: H27-B-4

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容		
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
11	7.45	7.70	様った細礫を含む砂(粗砂)	7.45	7.70	花崗岩類、頁岩の角～垂角礫の細礫を5%程度含む様った砂(粗砂)			7.45～13.75m: 礫混じり砂～砂質礫 径2～70mmの花崗岩類、黒灰色の頁岩の角～垂角礫を5%以上含む。基質は粗粒砂～細礫からなり、やや締まっている～締っている。	・盛土区間のうち、同様な地質区間をまとめ書きた
12	7.70	8.00	花崗岩類の細～中礫が主体。締った粗砂を含む。	7.70	8.00	砂質礫(盛土) 花崗岩類の角礫の細～中礫が主体。締った粗砂を含む。				
13	8.00	8.20	砂(粗砂)が主体となる	8.00	8.20	礫混じり砂(盛土) 砂(粗砂)が主体となる φ10mm以下の花崗岩類の角礫を含み、φ5mm以下の頁岩の垂角～垂円礫をごく少量含む。やや締っている。	7.45	13.75		
14	8.20	-	花崗岩類のφ10～50mmの角～角角礫が主体。大型の礫はApがやや目立つ。max φ70mm 少量の黒灰色の頁岩礫が散在する。	8.20	13.75	砂質礫(盛土) 花崗岩類のφ10～50mmの角～垂角礫が主体。大型の礫はApがやや目立つ。最大φ70mm 少量の黒灰色の頁岩礫が散在する。 基質は細礫および粗砂				
15	10.15	10.15	幾分炭化した長さ100mmの木片を含む。	-	-	-	10.15	10.15	10.15m: 幾分炭化した長さ100mmの木片を含む。	-
16	11.03	11.52	含有礫は総じて小さく中礫以下。	11.03	11.52	含有礫は上下位に比べて小さくなる	11.03	11.52	11.03～11.52m: 含有礫は上下位に比べて小さくなる。	-
17	12.05	12.20	Gpの大礫。	-	-	-	12.05	12.20	12.05～12.20m: 花崗斑岩の大礫を含む。	-
18	12.04	12.04	木片混じる	12.24	12.24	木片混じる	12.24	12.24	12.24m: 木片混じる。	-
19	12.51	12.63	幾分炭化した木片混じる	-	-	-	12.51	12.63	12.51～12.63m: 幾分炭化した木片混じる。	-
20	13.65	13.75	木片混じり。13.75m付近のものは合板であり、明らかにこれより上位は、人工地盤である。	13.65	13.75	木片混じり。13.75m付近のものは合板であり、明らかにこれより上位は、人工地盤である。	13.65	13.75	13.65～13.75m: 木片混じる。13.75m付近に合板を含む。	・上記に盛土区間を追記したため、人工地盤である旨の記載は削除した。
21	-	-	-	13.75	140.00	花崗斑岩 堆積物との境界は45°で明瞭 所々、斑晶が少なくアブライト様を呈する部分を含む。	13.75	140.00	13.75～140.00m: 花崗斑岩 堆積物との境界は45°で明瞭。所々、斑晶が少なくアブライト様を呈する部分を含む。	-
22	13.75	14.67	風化が著しく、割れ目の多くは不鮮明となる	-	-	-	13.75	14.67	13.75～14.67m: 風化が著しく、割れ目の多くは不鮮明となる。	-
23	14.24	14.24	付近、割れ目に沿ったマンガンの汚染が顕著	14.24	14.24	付近、65°割れ目に沿ったマンガンの汚染が顕著	14.24	14.24	14.24m付近、65°の割れ目に沿ったマンガンの汚染が顕著である。	-
24	14.53	14.53	付近、頁岩礫3ヶ。上部からの崩壊物と思われる	14.53	14.53	付近、頁岩礫3個。上部からの崩壊物と思われる	14.53	14.53	14.53m付近、頁岩礫を3個含む。上部からの崩壊物である。	-
25	14.67	-	風化は若干軽微となり、割れ目のほとんどが認識できるようになるが、コアは、軟質で脆い。割れ目に沿った薄い変質脈が白く見られるものがある。	14.67	15.49	風化は若干軽微となり、割れ目のほとんどが認識できるようになるが、コアは、軟質で脆い。割れ目に沿った薄い変質脈が白く見られるものがある。	14.67	15.49	14.67～15.49m: 風化は若干軽微となり、割れ目のほとんどが認識できるようになるが、コアは、軟質で脆い。割れ目に沿った薄い変質脈が見られるものがある。	-
26	15.00	15.49	低角度の割れ目が優勢。風化により割れ目沿いは劣化。砂～シルト状の細粒物が見られる。コアも軟質である。	15.00	15.30	15.06m、15.09mにはそれぞれ43°、55°の割れ目沿いに幅1～3mmのマンガンを含む。 15.30m以深は20°程度の低角度の割れ目が優勢。風化により割れ目沿いは劣化する。砂～シルト状の灰白色の細粒物が見られる。コアも軟質である。	15.06	15.30	15.06m、15.09mにはそれぞれ43°、55°の割れ目沿いに幅1～3mmのマンガンを含む。 15.30m以深は20°程度の低角度の割れ目が優勢。風化により割れ目沿いは劣化する。砂～シルト状の灰白色の細粒物が見られる。コアも軟質である。	-

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-4)

孔名: H27-B-4

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
	上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容	
			コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				
27	15.00	15.91	(変質欄)3ランク	15.00	15.91	(変質欄)2ランク	15.00	15.91	(変質欄)2ランク	-
28	15.52	15.60	礫状コア、多くは上部からの崩壊物と思われる。	15.49	15.62	礫状コア、多くは上部からの崩壊物と思われる。	15.49	15.62	15.49~15.62m: 礫状コアを呈する。	-
29	15.60	15.91	割れ目沿いの劣化が著しく脆弱	15.62	15.91	30°程度の割れ目沿いの劣化が著しく脆弱	15.62	15.91	15.62~15.91m: 30°程度の割れ目沿いの劣化が著しく脆弱である。	-
30	15.91	16.36	破砕帯である。全体にマンガンを汚染される	15.91	16.36	破砕帯である。全体にマンガンを汚染される			●15.91~16.36m: 破砕部 15.91~16.33m: 粘土混じり礫状~粘土質礫状部(H) 上端72°でやや湾曲して連続。下端不明瞭。径2~20mmの岩片主体で上部は割れ目が認められ、マンガンを汚染を伴う。オリープ黄色を呈する。 16.33~16.36m: 粘土状~礫混じり粘土状部(Hc-1) 上端不明瞭、下端76°で波打って連続。径2~5mmの石英粒や岩片を10%以下で含む。灰白色を呈する。幅25mm。	・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
31	15.91	15.91	上盤72°、緑灰色の粘土がやや湾曲しながら厚さ2~6mmで見られる。	15.91	15.91	上端72°、緑灰色の粘土がやや湾曲しながら厚さ2~6mmで見られる。 やや軟質であり、粘土はコアの中軸付近でせん減する。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。				
32	-	-	-	15.91	16.33	上端72°でやや湾曲して連続。下端不明瞭。粘土混じり礫状~粘土質礫状(H)を呈する。径2~20mmの岩片主体で上部は割れ目が認められ、マンガンを汚染を伴う。オリープ黄色を呈する。やや軟質、割れ目に沿って細粒部を挟むがいずれも局所的である。マンガンを汚染により一部不明瞭となっているが、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られる。	15.91	16.36		
33	-	-	-	16.33	16.36	上端不明瞭、下端76°で波打って連続。灰白色の粘土状~礫混じり粘土状(Hc-1)を呈する。径2~5mmの石英粒や岩片を10%以下で含む。厚さ25mm。粘土は軟質で連続性が良い。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。				
34	16.36	16.36	下盤76°、灰白色の変質粘土が厚さ25mm程生じている。	16.36	16.36	下盤76°、灰白色の変質粘土が厚さ25mm程生じている。最新活動面。粘土を伴い、最も直線的である。				
35	16.36	16.52	上位の破砕帯と風化の影響で劣化が著しい。	16.36	16.52	上位の破砕帯と風化の影響で劣化が著しい。	16.36	16.52	16.36~16.52m: 上位の破砕帯と風化の影響で劣化が著しい。	-
36	16.52	48.20	(変質欄)3ランク	16.52	48.20	(変質欄)2ランク	16.52	48.20	(変質欄)2ランク	-
37	16.52	17.03	割れ目沿いの劣化は顕著で一部礫~砂状となる	16.52	17.03	40~60°の割れ目沿いの劣化は顕著で一部礫~砂状となる	16.52	17.03	16.52~17.03m: 40~60°の割れ目沿いの劣化が顕著で一部礫~砂状となる。	-
38	17.03	17.86	低角度の割れ目が優勢。割れ目沿いの劣化が見られ、コアも軟質で表面はザラつく。	17.03	17.86	20°程度の低角度の割れ目が優勢。割れ目沿いの劣化が見られ、コアも軟質で表面はザラつく。	17.03	17.86	17.03~17.86m: 20°程度の低角度の割れ目が優勢で、割れ目沿いの劣化が見られ、コアも軟質で表面はザラつく。	-
39	17.86	18.00	コア表面のザラつきは幾分軽微。	17.86	18.52	コア表面のザラつきは幾分軽微。 20°程度の低角度の微細な割れ目が非常に多い	17.86	18.52	17.86~18.52m: コア表面のザラつきは幾分少ない。20°程度の低角度の微細な割れ目が非常に多い。	-
40	18.00	19.08	低角度の微細な割れ目が非常に多い	18.00	19.08	低角度の微細な割れ目が非常に多い	-	-	-	-
41	-	-	-	18.52	24.55	30~60°の中角度の割れ目が主体。割れ目に沿った褐色化が認められる。斜長石の風化した軟質となった比較的大型の斑晶が目立つ。	18.52	24.55	18.52~24.55m: 30~60°の中角度の割れ目が主体で、割れ目に沿った褐色化が認められる。風化した軟質となった比較的大型の斜長石の斑晶が目立つ。	-
42	18.70	20.00	斜長石の風化した軟質となった比較的大型の斑晶が目立つ	18.70	20.00	斜長石の風化した軟質となった比較的大型の斑晶が目立つ	-	-	-	-
43	19.57	19.76	礫状コアが主体となる	-	-	-	19.57	19.76	19.57~19.76m: 礫状コアが主体となる。	-

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-4)

孔名:H27-B-4

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				
44	20.02	20.02			付近、きわめて小規模な破砕帯(変質帯)副10~20mm、50°	20.02	20.02	20.02m付近、傾斜50°で幅10~20mmの極めて小規模な変質部。途中でせん滅する。	-
45	20.07	20.07			小規模な破砕帯(変質帯)幅10~40mm、角度30°	20.07	20.07	20.07m:傾斜30°で幅10~40mmの小規模な変質部。周辺岩盤にも同様な細粒部が認められており、その分布は不規則で系統性が認められない。また、原岩組織の残留の程度は周囲の岩盤と同様である。	-
46	20.23	20.37			割れ目沿いに一部細礫状となる。	-	-	20.23~20.37m:割れ目沿いに一部細礫状となる。	-
47	20.56	20.55		20.55	礫状となる。	20.55	20.65	20.55~20.65m、20.87~20.94m:礫状となる。	・記事内容が同じであるため、20.87~20.94mの深度も含めて記載した
48	20.87	20.94			礫状となる。	-	-	-	・上記にまとめ書きしたため記載しない
49	21.36	21.50		21.18	微細な割れ目に沿ってマンガンの汚染が明瞭	21.18	21.50	21.18~21.50m:微細な割れ目に沿ってマンガンの汚染が明瞭である。	-
50	21.50	22.47			割れ目に沿ってマンガンから褐色汚染へと変じる	-		21.50~22.47m:割れ目に沿ってマンガンから褐色汚染へと変わる。	-
51	21.85	22.18		21.85	(岩級区分欄)CM	21.85	22.18	(岩級区分欄)CLに含める	-
52	22.47	22.55		22.47	礫状コア、一部は上部から崩壊物も含まれていると思われる。	22.47	22.55	22.47~22.55m:コアチューブ引き上げ時の擾乱により礫状となる。	-
53	23.39	-		23.38	コアは軟質となり、表面はザラつく	23.38	24.55	23.38~24.55m:コアは軟質となり、表面はザラつく。	-
54	24.13	24.55			落下したコアを再採取したものである。	-		24.13~24.55m:落下したコアを再採取したものである。	-
55	-	-		24.55	-	24.55	25.48	24.55~25.48m:コア欠如	-
56	-	-		25.48	-	25.48	27.22	25.48~27.22m:全体に変質し、長石の白濁化が目立つ。	-
57	25.96	26.19			コアは軟質で表面のザラつきが大きい	-		25.96~26.19m:コアは軟質で表面のザラつきが大きい。	-
58	26.40	26.47			割れ目沿いの劣化が明瞭。コアも周辺より軟質である。	-		26.40~26.47m:割れ目沿いの劣化が明瞭で、コアも周辺より軟質である。	-
59	26.96	27.22			岩質が軟質で脆弱である	-		26.96~27.22m:岩質が軟質で脆弱である。	-
60	27.22	27.22		27.22	断断性の割れ目。変質も加わり上盤側は緑褐色で幅20mm軟質。角度40°、N7E.64W	27.22	27.22	27.22m:40°の割れ目は、変質も加わり上盤側は明黄褐色を呈し、幅20mmで軟質である。割れ目の面は凹凸があり、面のかみ合わせは良い。軟質部は連続せず、周辺岩盤との境界は一部を除いて漸移的である。軟質部の下端側の岩盤には原岩組織が認められ、軟質部と系統的な割れ目も存在しない。角度40°、N7E.64W	-